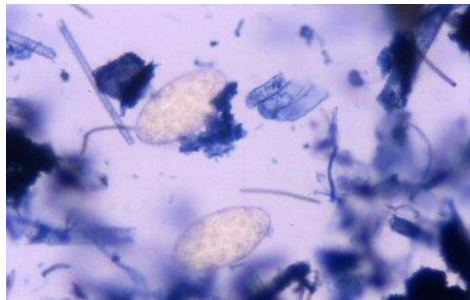


◆短角種 放牧前に必要な肝蛭駆虫と削蹄

放牧開始の1カ月ぐらい前に実施してほしいことに、肝蛭（かんてつ）の駆虫と削蹄があります。肝蛭は下牧した直後は、ほとんどいないのですが、冬期間、新しい稲わらを食べさせることにより、春には検出率が高くなります。

駆虫剤（虫下し）は、間違った投与による事故（母牛および胎児）が散見されますので「分べん後」の「いまの時期」に「正しい量」を投与してください。

削蹄の実施は放牧してからの病気、事故を予防する大事なポイントです（歩きにくい、歩けない、やせてきた、蹄が折れた・抜けた、崖から落ちた・・・）。一日中歩き回って採食、育児、繁殖行動をする放牧牛にとっての蹄の重要性を再認識してください。



肝蛭虫の卵